

言葉が、自分をつくる

令和8年度埼玉県推奨図書



中学生向け

■埼玉県では、青少年のみなさんに
読んでほしい図書を薦めています■

ユリの便箋



森川成美/作
静山社

大正時代、美術学校は男子、縫裁学校は女子しか入れない中、図案を描きたい女子(ユリ)と服を作りたい男子(さとる)の双子が入れ替わってそれぞれの学校に入学する。現代の当たり前が当たり前でない時代、懸命に生きる人々の姿に胸を打たれる一冊。

星の教室



高田郁/著
角川春樹事務所

中学時代に不登校になり、成人してからふとしたことをきっかけに夜間中学校へ通うようになった主人公がいろいろな事情を抱えながら学びを得られなかった人たちと接するうちに自分の人生を顧みて前向きになっていく物語。

ぼくたちの卒業写真



天川栄人/作
くまおり純/絵
文研出版

学校の卒業アルバム撮影・制作を請け負っていた父が骨折してしまったことを機に、同級生の星野から「もっと自由に、個人が目立つような卒アル」の撮影を依頼された蔵木。様々な人と関わりながら写真を撮る中で、蔵木の他人との向き合い方も変わっていく。

消えたモナ・リザ



ニコラス・デイ/作
千葉茂樹/訳
小学館

1911年、当時あまり知られていなかったモナ・リザが盗まれるという事件が起きる。事件の経緯や、モナ・リザの秘密、作者レオナルド・ダ・ヴィンチという人物が解き明かされるノンフィクションながらミステリーで夢中になって読める一冊。

さくら前線急上昇！ 高校受験で大逆転！？



橋長あこ/作
かわいひろ/絵
文研出版

幼馴染の男子に振られたことをきっかけに難関校への受験を決めた中学2年の2月。何をどうすれば分からなかった主人公が周りの人からの助けを経て辛い受験勉強を乗り切っていく。強い想いと諦めない心が生み出す受験奮闘物語。

勉強や進路のこと、そして一年後に来る受験について、僕は最近どこか焦りや不安を感じていました。周りの友達が進んでいるように見え、すこし取り残されているような気がしていたからです。そんな時にこの本と出会い、厳しい状況から合格を勝ち取ろうとする主人公の姿に、今の僕を重ね合わせながらページをめくっていきました。特に印象に残っているのは、プレッシャーで押しつぶされそうになった主人公を、家族や友人が静かに支える場面です。それまで受験や勉強は自分一人だけの孤独な戦いだと思っていた僕は、応援してくれる人の存在こそが、限界を突破するための最大のエネルギーになるのだということに気付くことができました。この本は僕に、最後まで諦めずに挑戦する勇気をくれました。僕もこれから進路などの大きな壁にぶつかったときは、この物語の主人公のように自分の可能性を信じ抜き、前を向いて一歩ずつ進んでいきたいです。

川越市立霞ヶ関東中学校2年生



埼玉県マスコット
「コバトン」

問合せ先：埼玉県 県民生活部 青少年課

✉ a2905-01@pref.saitama.lg.jp

☎ 048-830-2907

図書一覧はこちら

